

2011年度 関西学院 聖和幼稚園 学校評価を終えて

今年度、聖和幼稚園は、創立120周年目を迎えました。本園は歴史の中で、「幼な子をキリストへ」の建学の精神を基軸に、子どもたち一人ひとりが神様に、みんなに愛されていると感じられるキリスト教保育の実践を脈々と受け継いできました。

そこで、歴史的にも節目となるこの年に、学校評価の評価項目においても各学校の共通項目として「キリスト教主義教育」を選定し、本園の保育の根幹を問い直すことにしました。また、文部科学省の「幼稚園における学校評価ガイドライン」に沿った項目としては、「教育課程・指導（保育内容）」「保健管理」「安全管理」「子育て支援」の昨年度来の項目に「預かり保育」を追加し、独自項目として「自然教育」を設定しました。

より精度の高い振り返りをするために、保護者、教員のアンケート調査と客観性を持たせるために昨年度から導入した聖和短期大学教員、評価情報分析室室長・副室長による「学校関係者評価」を再度実施しました。この学校関係者評価においては、昨年行われなかった評価者による幼稚園見学・保育参観と、その参観後の意見交換も行って実践の省察に努めました。

結果、本園の「子どもを中心に据えたキリスト教保育」のあり方について一昨年、昨年に続いて高い評価が得られました。このほか、「預かり保育」「自然教育」「子育て支援」においても高い評価が得られました。しかしながら、この評価に驕ることなく、今後もより謙虚に良い保育を目指して研鑽していきたいと思っております。

昨年、細かな問題点が見出された「保健管理」については、評価が上がり、今年度行った「保健だより」等、園通信・保健関係情報の周知徹底や、掲示板にての告知、情報のアナウンスなどが功を奏したと考えています。同じく昨年、細かな問題点が見出された「安全管理」においては、園内の遊具・環境の安全確認等安全管理の徹底と、保護者会等へのこれら安全管理内容の周知を行いました。評価は上がりませんでした。やはり、これら安全管理については内容の可視化等を行い、保護者の方々に安心してもらえるようにしていきたいと考えています。これと同時に学校関係者評価より「安全管理」として、大規模災害時の対処についても考慮されるべきとの指摘もいただきました。

以上、これらの結果を一つひとつ精査し、学校評価が「幼稚園の保育を良くしていくもの」との目的を失わず、教職員一人ひとりが誠実な対応をしていきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

2012年3月23日

関西学院 聖和幼稚園
園長 出原 大

学校評価シート

【キリスト教主義教育】

現状の説明

本園は、下記の3つの教育方針を柱にしてキリスト教保育を行っている。

- ・子ども一人ひとりが、イエス・キリストによって啓示された神様の愛を感謝と喜びをもって受け止め、自らがかけがえのない存在であることを知る。
- ・子ども自身が、何事にも意欲的、主体的に取り組む自律的な精神を培うとともに、お互いの個性の相違や多様性を認めながら共に育ちあうことのできる思いやりの心を育む。
- ・神様の創造された自然の中でいろいろな体験を通し、豊かに情操を涵養する。

キリスト教保育の根幹である愛情を感じられる教育の実践においては、神から命・個性を与えられている子どもたち一人ひとりを大事に守り育てていくキリスト教保育を行っている。教諭も日々キリスト教保育の実践に努めている。

保育の中で大切に位置付けている礼拝は、日曜日に礼拝を行い、日々の保育でも形式にこだわらず（話し合いの中での祈り、食前の祈りなどを含め）礼拝を行っている。また、子どもたちは保育者と共に、友だちと共に、主体的に祈ることを大切にしている。

本園では、毎朝、教職員が心を合わせ祈りの時を持って保育、業務を始めている。そして、保育活動を担う保育者は、教師会でのキリスト教保育の勉強会、また、キリスト教保育の研修会に参加している。

保護者に対しては、新入園児保護者会、保護者会総会でキリスト教保育について話をしている。また、クリスマスの前には、クリスマスについての講演会「アドベント保護者会」を行っている。その他のキリスト教に関する行事（母の日、花の日、収穫感謝礼拝など）は園通信にて、由来、意味、大切にしていることなどを伝えている。

評価・分析（アンケート結果を含む）

本園の保育の柱である「キリスト教主義教育」について保護者も教諭も100%肯定的に回答しており、教諭は、『キリスト教保育の理念の共有ができています』、保護者に対しては『キリスト教保育で大切にしていること』を理解していただいていると思われる。

キリスト教保育の根幹である愛情を感じられる教育の実践では、教諭は一人ひとりの子どもをしっかりと受け止めて保育していることの自負が数値に表れている。また、98.9%の保護者が肯定的に回答している。

改善の具体的方策

評価、分析から判断して、今まで同様、キリスト教保育の理念の共有ができるように、教諭に対しては、キリスト教保育の研修会に参加すること、日常の勤務においても理念の共有、キリスト教文化に触れる機会を持っていきたいと思う。また、保護者に関しては、毎年新たな気持ちで、講演会、手紙等からキリスト教保育の大切にしていることを伝えるようにしていく。

キリスト教保育の根幹である愛情を感じられる教育の実践では、キリスト教保育の核となる一人ひとりの子どもたちを大切にする観点からも日々の努力の積み重ねが重要であると考える。そして、今後も、現在実践しているキリスト教保育の理念を基に、子どもたち一人ひとりの心に添った愛情深い実践を心掛けていきたい。

学校関係者評価（補足説明、評価者との意見交換を受けて）

保護者への宗教教育は、入園説明会、年一回の保護者会総会、アドベント保護者会などで

キリスト教主義教育についての話を理解していただいている。また、行事は礼拝から始めており、また、保護者と共に日曜礼拝をする機会を設けている。学校関係者評価者からは「キリスト教主義教育については、聖和幼稚園はしっかりとできており、現状を維持するとともに、さらに日々研鑽を積んで取り組んでほしい」と意見をいただいた。

学校評価シート

【保育内容】

現状の説明

本園はキリスト教保育を実践している。

教育方針は、「キリスト教主義教育」の項目でも触れたとおり、それらを柱にして指導計画を立てている。そして、月案、週案、日々子どもの育ちを把握し子どもの姿に応じて日案を作成し保育実践をしている。保護者には、月の保育目標、活動内容を、毎月発行する園通信にて伝えている。

本園は、保育内容は一人ひとりのあるがままを受け止め、育ちを大事に考え、遊びを中心とした、ゆったりとした保育計画を立てている。そして、外遊びを重要と考えており、たっぷり外遊び時間をとっている。

幼児教育は、環境による教育といわれる。教諭は、人的（自分自身）、物的環境について、日々、子どもの姿と自分自身の保育を振り返り、省察をしている。保育環境整備は、教諭は、子どもの発達に応じた、環境の在り方、遊具・教材の研究を行い、保育環境を整え、日々の保育に活かしている。そして、園児の育ちに応じて必要である遊具・教材は教師会で検討し購入している。また、遊具は使用不可になった場合も随時買い替えている。教材が不足した場合は、随時補充を行っている。

評価・分析（アンケート結果を含む）

一人ひとりの教諭が本園のキリスト教保育の理念を理解し、保育計画を立案し、保育を行っている。そのことが功を奏して、本年度も子どもたち一人ひとりのレベルで、園生活の中で自主的、意欲的に活動する姿が確認できた。また、教諭のアンケート結果からも保育理念から保育計画を立案し、子どもの意欲、主体性を育む保育内容を実践していることが分かる。

登降園時の保護者と教諭との会話からも、子どもの意欲、主体性を育む保育内容であること、保育環境が充実していると判断できる。また、アンケートは、99%近くの保護者が肯定的に回答している。

教諭は、日々の保育を省察することで、保育の質を高めている。また、保育者が、日々意識を持ち遊具・教材研究していることが、教諭全員の肯定的な回答結果として現れている。

改善の具体的方策

教諭、保護者も高い評価をしていることから、現在行っていることを継続し深めていく姿勢が必要である。また、違った視点からの保育内容について考える機会が必要である。今年度は公開保育を実施し、その後、参観者と振り返り、保育研修会の時を持った。違った視点から保育内容を考える手だてとして、全教諭で他の幼稚園を保育参観し、学び合う機会を持つ。

学校関係者評価（補足説明、評価者との意見交換を受けて）

聖和幼稚園の保育内容は、テクニックを育てるのではなく、心が育つことを大切にしている。一人ひとりの子どもの思い、願いを大切に、喜びにつながるように考えている。そして、実際の体験を大切にしている。

学校関係者評価者からは「年長組の姿を見ると、3年間の育ちが見える。年長児の姿からは、主体性、創造性、集中力などの育ちを感じることができた。目に見えない心の成長を感じることができた。聖和幼稚園の大切にしている「自主的に」育つ、「ともに」育つ、「喜びを持って」育つのポイントを押さえた保育である」などのご意見をいただいた。

また、「公開保育をするのであれば、隣接の大学、短期大学の教員にも情報として伝えてほしい」とのご意見があったので今後は、大学、短期大学との連携を図る上でも情報を共有できるようにしていきたい。

学校評価シート

【保健管理】

現状の説明

○日常の健康管理、疾病予防の取組

園側は、年度初めに子どもたちの保護者に生活調査表（年度ごとに記入のもの）の記入をお願いし、一人ひとりの事前の健康状態の把握に努めている。

教諭は、子どもたちが登園してくると一人ひとりの健康状態を把握し、保育中も適宜心身の健康状態を見ながら保育を行うようにしている。体調に変化が見られた場合は、園長が確認し、看護師に診てもらっている。また、保護者とも、登降園の際に子どもの健康状態について連携をとり、健康管理を行うようにしている。

○園医、看護師との連携による健康管理、疾病予防の取組

園医が年1回の健康診断を行っている。また、流行性の疾病対応など、園医より随時丁寧な情報提供と指導を受けている。

園医は、本園保護者会を対象にAEDの使用について、心肺蘇生法、救急法等の講習会を1学期に実施した。また、園医の医院にて配布されている院内月刊報を園内掲示板に貼り出して情報公開をしている。

看護師は、日々、園児の欠席状況、理由を把握し保健日誌に記録している。また怪我の手当、与薬など適切に行い、同様に保健日誌に記録している。病院に連れて行くかの判断についても園長・園医との相談によって丁寧に行っている。また、園医・看護師が中心になって保健だよりを発行している。

○家庭、地域、保健・医療機関との連携による健康増進

西宮市教育委員会、兵庫県健康増進課、西宮市健康福祉局保健所健康増進グループ、園医（園医は地域で小児科を開業している）よりの予防、対処情報、予防接種の情報が伝達され、園内の掲示板にてそれらの情報を公開し、伝達している。

評価・分析（アンケート結果を含む）

○日常の健康管理、疾病予防の取組

アンケート結果より、「幼稚園は、子どもたちの心身の健康状態を把握して保育している」という質問に保護者の96.6%が肯定的に回答していることから、一定の評価が得られているといえる。昨年も肯定的な回答が92.5%であったが、今年度もこの体制を維持、強化して臨んだ結果、さらに肯定的な回答が増えたと考えられる。教諭のアンケート結果も強くそう思うと答えた回答が、昨年度89.5%から今年度94.5%になったことから取り組みが裏付けられる。

○園医、看護師との連携による健康管理、疾病予防の取組

保護者のアンケートにおいて本項目の「幼稚園は、園医、看護師と連携して子どもたちの健康管理、疾病予防に努めている」という質問で、一昨年度は、肯定的な回答が83.0%、昨年度が90.0%、そして、今年度は94.9%の保護者が肯定的な回答をしている。また、教諭のアンケート結果も強くそう思うと答えた回答が、一昨年度52.6%から今年度は78.9%になったことから、一昨年度からの改善の具体的な方策としての口頭での伝達、掲示板等による情報公開を継続してきたことが、改善の結果として表れている。

○家庭、地域、保健・医療機関との連携による健康増進

保護者のアンケートにおいて本項目の「幼稚園は、医療専門機関からの情報公開・伝達等

をしている」という質問で、肯定的な回答が一昨年度は82.0%、昨年度は83.0%、そして、今年度は95.5%であった。また、教諭のアンケート結果も昨年度は、5.3%否定的な回答があったのに対して、今年度は、全員の教諭が肯定的な回答をしている。今年度は取り組みとして、公開している情報の周知徹底を図ってきた結果が表れていると考える。

改善の具体的方策

- 日常の健康管理、疾病予防の取組
 - 園医、看護師との連携による健康管理、疾病予防の取組
 - 家庭、地域、保健・医療機関との連携による健康増進
- 今後もこの体制を維持、強化して臨みたい。

学校関係者評価（評価者との意見交換を受けて）

聖和幼稚園の保健管理の体制の問題点について話し合った。
以前に比べ保健管理体制は改善されているが、学校法人 関西学院の一つの学校として保健管理の在り方、具体的には看護師の在り方を考える必要がある。
今後は、聖和キャンパス保健館分室との連携を深め対応していく。

学校評価シート

【安全管理】

現状の説明

○事故や緊急事態発生時の適切な対応

園児が怪我をした場合は、看護師が対応し、病院に連れていくかどうかは園長が判断している。緊急事態が発生した場合は園児が適切に行動できるように、日常生活から教諭の話を聞いて判断・行動できるように指導している。

火災、地震を想定したマニュアルに応じて避難訓練を行っており、教諭は避難訓練の想定だけではなく、様々な状況を日常から想定し、柔軟、臨機応変に対応できるようにしている。

また、本園は、現時点で事故、緊急事態に備えて以下の対応を考えている。県警ホットラインを職員室・ホールに設置し、緊急時にはすぐに連絡ができるようにしている。また、キャンパスを総括管理する西宮聖和キャンパス事務室と常に連絡がとれる状態にあり、適切な指示を仰いで対応している。警備員が定期的に幼稚園を含めた西宮聖和キャンパス内を巡回している。駐車場内においても、登降園時は警備員が立ち安全に配慮している。原則、園長もしくは副園長が登降園時には幼稚園の正門に立ち、子どもたち、保護者の安全を確認している。

○園内環境の安全点検

本園では、毎朝保育前に教諭によって園舎・園庭の安全確認を行っている。特に園庭は、教諭がグループに分かれて小屋や遊具の安全点検、及び不審物、不審者の存在がないかを確認している。また、危険な箇所、安全に欠ける環境に関しては、西宮聖和キャンパス事務室（法人）と相談して早急に対応している。

○教職員、法人、専門機関との連携による危機管理マニュアルに応じた対応

「火災」、「地震」を想定した避難訓練をマニュアルに応じて役割を決めて行っている。

評価・分析（アンケート結果を含む）

○事故や緊急事態発生時の適切な対応

昨年度は1名の教諭が「あまりそう思わない」と回答していたが、今年度は全員の教諭が、肯定的な回答をしており、対応意識は高い。事故や緊急事態発生時に保育者全員でのチームワークが大切であり、全員の保育者が肯定的な回答ができるように努力してきた結果だと考えられる。

保護者のアンケートによる回答は、「あまりそう思わない」と回答した保護者は、3歳児が10.6%、4歳児が4.9%、5歳児が4.3%である。年齢が低いと、なかなか教諭の指示に従うことが難しいこと（避難訓練ではびっくりして泣いている子どもは教諭が抱きかかえて移動しているのが）が影響していると考えられる。

○園内環境の安全点検

毎朝保育前に教諭が園舎・園庭・園庭の遊具の安全点検をしていることから、日常的に意識が高い。教諭のアンケートは肯定的な回答が100%であり、そのことを裏付けている。

保護者も93.1%の保護者が肯定的なアンケートの回答をしていること、また、遊具を修理すると「直したのですね」と声をかけてくれる保護者もいることから信頼は高いと考えられる。

○教職員、法人、専門機関との連携による危機管理マニュアルに応じた対応

「火災」、「地震」を想定した避難訓練は、幼稚園単独で行っており、そこでの教諭間の連

携はとれている。今後、大災害を想定した聖和キャンパス全体での訓練も必要があると考え
る。また、専門機関、具体的には消防署と連携した訓練も必要であるとする。

改善の具体的方策

○事故や緊急事態発生時の適切な対応

事故や緊急時の適切な対応、臨機応変な対応ができるように日常から様々なことを想定し
たシュミレーションを教職員が行える場を設けていく。また、保護者のさらなる理解、信頼
を得るために避難訓練等をした時、具体的にどのような対応をしたか保護者に公表してい
く。

○園内環境の安全点検

今後も安全を第一に考えている意識をさらに高めて、安全な環境の保持に努めていき
たい。また、今年度同様、本園の安全管理の考え方を保護者に理解していただく機会が必要
である。

○教職員、法人、専門機関との連携による危機管理マニュアルに応じた対応

専門機関とは、まずは通報訓練等を来年度は実施したいと考える。また、聖和キャンパス
とも、避難訓練の計画を伝えるだけでなく、実際に連絡を取る形で訓練等を実施したい。

学校関係者評価（評価者との意見交換を受けて）

保育、預かり保育中に地震等の災害が発生した場合、子どもの安全確保のための準備、訓練
等はできている。しかし、災害が発生した場合の保護者への連絡手段、保護者に連絡が取れ
なかった場合、たとえ連絡が取れたとしても保護者が迎えに来られない場合の想定がされて
いない。法人全体として考えることも必要であるが、幼稚園としての具体的な対応策を早急
に考える必要がある。

そのことを受けて、幼稚園としては、保護者への連絡手段、園児を迎えに来る手段をどの
ように把握するかを考えていきたい。また、数日間の園児分の食糧、宿泊のための備品等の
備蓄品などを法人（聖和キャンパス）と相談しながら考えていく。

学校評価シート

【預かり保育】

現状の説明

○預かり保育の教育目標

- ・預かり保育においても一人ひとりの子どもたちが、神様に愛された存在として命、個性が大事に守られ、安心できるようにする。
- ・自然の中で仲間（園児・園庭開放時に遊びに来ている小学生）と存分に遊び、心身の健康が保たれ、豊かな感性、社会性などが育まれるようにする。
- ・保護者にとっても預かり保育をすることで、心のゆとりができることや子育てにより喜びが感じられるようにする。

○預かり保育の保育時間、保育料

- ・曜日・時間（原則）
月～金曜日
月・木曜日の午前保育 11:50～17:00
火・水・金曜日の午後保育 13:30～17:00
- ・預かり保育料
午前保育 700 円（おやつ代を含む）
午後保育 500 円（おやつ代を含む）
一日保育（春・夏・冬休み）1,200 円（おやつ代を含む）

○預かり保育 教諭の担当について

預かり保育専任の教諭が 1 名、補助教諭も 3 名担当し、さらに、人数に応じて（子ども 15 名に保育者が 1 名以上保育にあたる体制にしている）補助の教諭が入るようにしている。

○預かり保育 保育内容

基本的には、通常保育の内容と同様、延長線上にあるもので、外遊び、室内の自由活動、絵本、お話などのプログラムをゆったりと行っている。また、この預かり保育の時間内におやつ時間（休息として）を持っている。

○利用園児数（2011 年度 12 月末現在）

- ・4 月-162 名、5 月-227 名、6 月-411 名、7 月-270 名、夏休み-255 名、9 月-263 名、10 月-294 名、11 月-368 名、12 月-201 名、冬休み-122 名。

評価・分析（アンケート結果を含む）

試行期を経て、検討をし、昨年度正式に実施した事業である。実施 2 年目を考えると、預かり保育を利用した保護者の 95%以上の保護者が肯定的な回答をしていることは、評価してよいと考える。

また、教諭は 100%肯定的な回答をしている。

春休み、夏休み、冬休みの期間の預かり保育を今年度新たに実施した。そのことも含め、来年度以降、継続して評価をしていきたい。

改善の具体的方策

実施 2 年目であるので、日常の預かり保育の保育内容、教諭体制、また、春休み・夏休み・冬休み期間の預かり保育の保育内容、教諭体制を、預かり保育担当教諭だけではなく、幼稚園全体として今年度の反省から具体的に改善していきたい。

学校関係者評価（評価者との意見交換を受けて）

預かり保育の具体的な対象の子どもについてのご質問があった。預かり保育の対象の子どもは園児であることを答える。

聖和幼稚園の預かり保育は、親支援の子育て支援ではなく、子どもを育てていく支援としての預かり保育である。家庭に帰ってからの子どもの遊び環境からも聖和幼稚園の預かり保育は評価できる。

学校評価シート

【自然教育】

現状の説明

本園は、教育方針の一つが

- ・神様の創造された自然の中でいろいろな体験を通し、豊かに情操を涵養する。

であり、自然教育を大切にしている。

1980年代後半より幼稚園周辺である甲東、上ヶ原地区も他の都市部周辺地域と同じように、宅地造成、自動車社会の興隆などによって戸外での遊び場が減少してきた。殊にこの影響で、子どもたちの自然環境での遊び場は激減した。人は自然の一員という立場で自然教育の重要性を感じている本園では、人・子どもは自然環境の適者として、その中で遊ぶことにより心身の健康・恒常性を保つと考え、また、子どもは幼少期の感覚器・五感が一番鋭敏かつ発達する時期に、自然環境にて自然物に触れて生きる力の源泉が育まれていくと考えている。そこで、1980年代後半よりこの子どもたちの自然離れを鑑みて園庭・自然環境を見直し、子どもたちが身近に触れられる様に樹木・草本類を多量植栽した（植物環境を充実させると昆虫、野鳥などが多く集まる生態系が形成されていった）。

20数年に亘るこの取り組みにより、現在は、園内の豊かな自然環境の中で子どもたちは、仲間と共に大いに自然環境に触れて元気に、また、感性もしっかりと育まれてきていることが確認できている。

評価・分析（アンケート結果を含む）

本園が大切にしていることを教諭全員が理解し、保育実践している。そのことが全員の教諭が「強く思っている」と回答していることから分かる。

保護者アンケートの「子どもたちの心身の健康を考えて自然環境を備えている」の質問に95.8%、「子どもたちが身近に自然環境に触れられるようにして、感性が育まれるように保育している」という質問に、99.4%の保護者が肯定的に回答している。昨年度同様、高い数値であることから、本園の豊かな自然環境における保育を望み、そして、入園後も子どもたちが、幼稚園の園庭でいきいきと遊び、元気・健康に育ち、五感を十分に使い感性が育まれていることを認めたことが、アンケート結果から分かる。

改善の具体的方策

この結果に慢心することなく、現状の環境の維持だけではなく、環境に変化を持たせることも検討しながら、今後もこの生きる力に繋がる自然環境作りを充実させていき、援助においても一人ひとりの子どもたちに共感しつつ自然体験を重視していきたいと考えている。

学校関係者評価（補足説明、評価者との意見交換を受けて）

聖和幼稚園は、自然教育を重視した保育として、子どもたちが身近に触れられる様に樹木・草本類を多量植栽した、昆虫、野鳥などが多く集まる園庭で五感を働かせて遊べるように外遊び時間を十分に取っている。

聖和幼稚園が自然教育を重視していることはよく分かるが、さらに、広く多くの方に自然教育の重要性を保育の重要性を理解してもらい、保育の質を高めるために保育の振り返りとして、具体的な内容を現状の説明、評価・分析に入れ込むとより分かりやすいと思われる。

保護者から見てとても良いと思う取り組みも幼稚園としては当然として当たり前になっていると考えられるので、今後、園としてさらに分かりやすい形で保護者や地域に発信していきたい。幼稚園は来年度からホームページをリニューアルするので、情報を発信する一つ

の手段として考えている。

学校評価シート

【子育て支援】

現状の説明

○園庭開放

本園では、近隣の子どもたちの遊び場事情を鑑みて、下記の園庭開放と子育て支援事業を行っている。

①園児の保育後の園庭開放

(内容) 平日の保育後～17時まで幼稚園児に遊び場として園庭を開放する。

(対象) 幼稚園児

②わくわく幼稚園

(内容) 在宅幼児を小学校教育へ円滑に移行させるため、私立幼稚園の施設を利用し、従前の園事業に加え、園児と同等の専門的な幼児教育を計画的に実施する。

(対象) 就学前の在宅幼児(満3歳～5歳)

③せいわこどもの園

(内容) 体験幼児教育、親に対する子育て教育

(対象) 2歳児親子、3歳児親子

④病児保育・ゆりのき組

(内容) 心臓疾患の子どもを対象に月4回程度の保育を行う。

(対象) 3歳～5歳児の心臓疾患の子どもとその保護者

⑤地域の子ども(未就園児)への園庭開放

(内容) 8時30分～17時まで親子で園庭で遊ぶ。8月は10時～15時。

(対象) 未就園児とその保護者

⑥地域の小学生への園庭開放

(内容) 保育後～17時まで小学生に遊び場として園庭を開放する。8月は10時～15時。

(対象) 小学生

○子育て・発達相談

本園では、登降園時保護者が送迎をすることになっているので、保育者と保護者が直接に顔を合わせて話し合いの時間が持てるようになっている(登園時は連絡事項程度)。保育者は、この時間に保育中の子どもの様子を伝えたり、家庭での様子について聞いたり、保護者と子育て、教育に関するコミュニケーションをとっている。この連携は、良い子育て、教育の鍵となる事柄として重要視している。

また、保護者会活動として、「子育て相談会」を10月に実施した。

現在、保護者からの申し入れがあれば、担任、補助教諭、園長、副園長と子育て・発達相談できるようにしている。また、発達相談においては、専門的な視点で相談できる臨床心理の専門家に指導をお願いしており、保護者からの希望があれば園を仲介して個別相談することが可能になっている(臨床心理の専門家は、月3回来園)。

評価・分析(アンケート結果を含む)

○園庭開放

全員の教諭が肯定的な回答をし、高く評価し、99.4%の保護者も肯定的な回答をしている。園児の登園後、園児の弟、妹が園庭で親子で遊ぶ姿(平均して15組ほど)、また、未就園児の親子が園庭で遊ぶ姿、放課後に近隣の小学生がほぼ毎日遊びに来ていることから本園の園庭が、近隣の子どもたちの遊び場(子どもの園)と定着してきていると考えられる。肯定的な回答は、昨年度より更に数値が高くなっている(97.5%→99.4%)。

教諭と保護者が高評価している要因は、園が考えている保育後の子どもの過ごし方と、保護者の思う保育後の外遊びのニーズが一致したからであると考えられる。

○子育て・発達相談

昨年度の具体的な方策として、「保護者が気軽に発達相談しやすい環境を整えていく」ことを挙げて実施してきたが、昨年度同様に、保護者のアンケート結果は、肯定的な回答が82.0%に留まっている。しかし、個別の相談は、昨年度に比べると増えてきていることから、アンケートの結果では現れないが、相談はしやすくなってきていると考える。

改善の具体的方策

○園庭開放

今後も近隣の子どもたちの遊び場事情を考えて園庭開放を継続していく。

○子育て・発達相談

子どもの育ちについて、子育てについての話しは、現状でも説明したが、登降園時に教諭と保護者が直接に顔を合わせて話し合いの時間が持てるようになっている(登園時は連絡事項程度)。今まで以上に、保護者が気軽に子どもの育ちについて、子育てについて話ができるようにしていきたい。

学校関係者評価 (補足説明、評価者との意見交換を受けて)

園庭開放では、午前中は地域の未就園の親子、園児の弟・妹の親子が遊んでいる。また、その時に親同士が情報交換をしている。

保育終了後は、園児の親子、預かり保育ぶどう組の子ども、小学生が入り混じって遊んでいる。このことから考えると、聖和幼稚園の園庭が地域の「子どもの園」「遊び場」に定着しつつある。

子育てについて、発達相談については機会を設けているが、違った形で保護者に問い合わせる工夫、保護者から意見をすいあげる工夫が必要である。難しい事柄であるが、努力していくことが必要である。

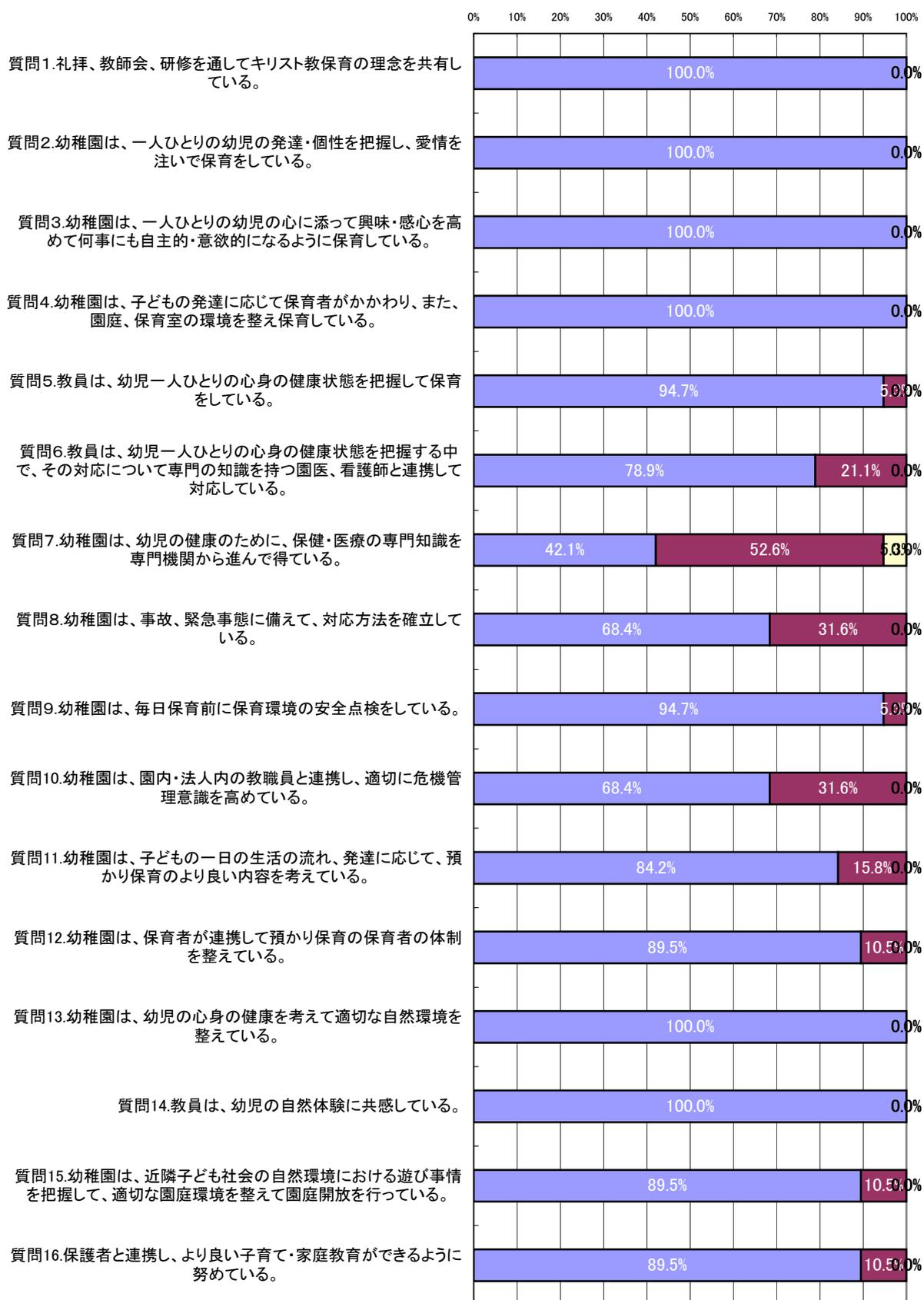
2011年度 学校評価 実施項目一覧（聖和幼稚園）

	大項目	小項目	目標	アンケート	
				教職員用	保護者用
	幼稚園全般				1.子どもは、幼稚園に行くのが楽しいと感じている。 2.幼稚園の教育に満足している。
共通	キリスト教主義教育	キリスト教保育の理念の共有	教職員間でキリスト教保育の理念を共有する。	1.礼拝、教師会、研修を通してキリスト教保育の理念を共有している。	3.幼稚園はキリスト教保育の考え方、大切にしていることを、手紙、話等で説明している。
		キリスト教保育の根幹である愛情を感じられる教育の実践	一人ひとり幼児の発達・個性を把握して、子どもたちが愛されていると感じられる保育をする。	2.幼稚園は、一人ひとりの幼児の発達・個性を把握し、愛情を注いで保育をしている。	4.幼稚園は、子どもたち一人ひとりを受け止めて保育している。
ガイドライン	教育課程・指導	各領域に主体的に取り組む姿勢を培う援助	幼児が自律的な精神を養い、何事においても意欲的に取り組めるように援助する。	3.幼稚園は、一人ひとりの幼児の心に添って興味・感心を高めて何事にも自主的・意欲的になるように保育している。	5.幼稚園は、子どもたちの意欲や主体性を育む保育をしている。
			環境（人的・物的）を通しての保育を実践する。	4.幼稚園は、子どもの発達に応じて保育者がかかわり、また、園庭、保育室の環境を整え保育している。	6.幼稚園は、子どもの発達に応じて、保育者がかかわり、また、園庭、保育室の環境を整えて保育をしている。
ガイドライン	保健管理	日常の健康管理、疾病予防の取組	幼児一人ひとりの健康状態を把握し、また、疾病予防の指導を行う。	5.教員は、幼児一人ひとりの心身の健康状態を把握して保育をしている。	7.幼稚園は、子どもたちの心身の健康状態を把握して保育している。
		園医、看護師との連携による健康管理、疾病予防の取組	保育者の対応できない怪我、疾病等について園医、看護師に相談して最善の対応をする。	6.教員は、幼児一人ひとりの心身の健康状態を把握する中で、その対応について専門の知識を持つ園医、看護師と連携して対応している。	8.幼稚園は、園医、看護師と連携して子どもたちの健康管理、疾病予防に努めている。
		家庭、地域、保健・医療機関との連携による健康増進	流行性の疾病等について専門機関と連携をして、正確な情報を得て、園児・保護者に対応する。	7.幼稚園は、幼児の健康のために、保健・医療の専門知識を専門機関から進んで得ている。	9.幼稚園は、園医、医療専門機関からの情報を掲示板、お手紙等で伝達している。
ガイドライン	安全管理	事故や緊急事態発生時の適切な対応	園に関係する事故や緊急事態に対応できる備えをする。	8.幼稚園は、事故、緊急事態に備えて、対応方法を確立している。	10.幼稚園は、事故や緊急事態に適切な対応ができるように、日ごろから子どもたちが保育者の指示で行動できるようにしている。
		園内環境の安全点検	子どもたちの活動について把握し、その活動範囲の安全点検を確実に行う。	9.幼稚園は、毎日保育前に保育環境の安全点検をしている。	11.幼稚園は、子どもたちの安全を考えて遊具等の環境を整えている。
		教職員、法人、専門機関との連携による危機管理マニュアルの作成	幼稚園の危機管理マニュアルを、教職員、法人、専門機関と連携して作成する。	10.幼稚園は、園内・法人内の教職員と連携し、適切に危機管理意識を高めている。	12.幼稚園は、危機管理意識を持ち、マニュアルをもって子どもたちの安全を守っている。

2011年度 学校評価 実施項目一覧（聖和幼稚園）

ガイドライン	預かり保育	子どもの遊び環境、保護者の実情による預かり保育の実施	預かり保育「ぶどう組」の保育内容を検討する。	11. 幼稚園は、子どもの一日の生活の流れ、発達に応じて、預かり保育のより良い内容を考えている。	13. 預かり保育「ぶどう組」を利用したことがある。
			預かり保育「ぶどう組」を担当する保育者の体制を整える。	12. 幼稚園は、保育者が連携して預かり保育の保育者の体制を整えている。	14. 問13で「ある」とお答えした方にお聞きします。 幼稚園は、子どもの遊び環境、育ち、一日の生活の流れを考えて、保育をしている。
					15. 問13で「ある」とお答えした方にお聞きします。 幼稚園は、預かり保育「ぶどう組」の保育者の体制を整えている。
独自	自然教育	自然教育の実践重視	幼児が幼稚園の自然環境の中で、存分に遊ぶことで健康な心身を養うように環境を整え、援助を行う。	13. 幼稚園は、幼児の心身の健康を考えて適切な自然環境を整えている。	16. 幼稚園は、子どもたちの心身の健康を考えて自然環境を備えている。
			幼児が自然物に触れて豊かに感性を育むように環境を整え、援助を行う。	14. 教員は、幼児の自然体験に共感している。	17. 幼稚園は、子どもたちが身近に自然環境に触れられるようにして、感性が育まれるように保育している。
独自	子育て支援	園庭開放	近隣の子ども社会の自然環境における遊び事情を鑑み、園庭開放を行う。	15. 幼稚園は、近隣子ども社会の自然環境における遊び事情を把握して、適切な園庭環境を整えて園庭開放を行っている。	18. 幼稚園は、子どもたちの遊び事情を考えて園庭開放を行い、大いに自然環境にふれられるようにしている。
		子育て・発達相談	子育て・家庭教育における相談、発達相談を随時受けられる体制を整える。	16. 保護者と連携し、より良い子育て・家庭教育ができるように努めている。	19. 幼稚園は、降園時などに時間を設けていつでも子どものことについて相談ができる。

2011年度 学校評価アンケート集計結果
(幼稚園・教員)



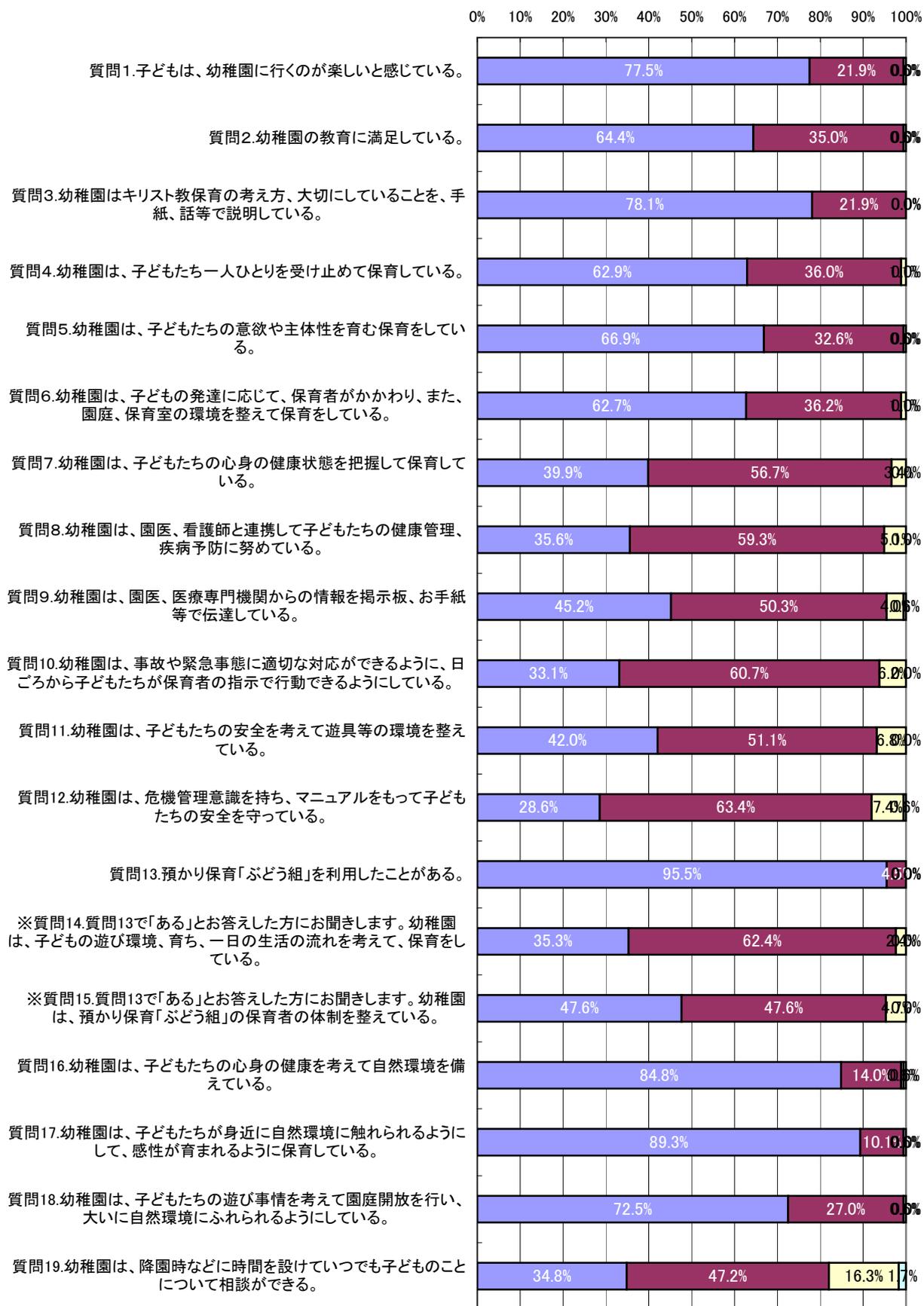
■ 回答番号1: 強く思う

■ 回答番号2: どちらかといえば思う

□ 回答番号3: あまりそう思わない

□ 回答番号4: まったくそう思わない

2011年度 学校評価アンケート集計結果
(幼稚園・保護者)



■ 回答番号1: 強く思う／はい(質問13のみ)

■ 回答番号2: どちらかといえばそう思う／いいえ(質問13のみ)

□ 回答番号3: あまりそう思わない

□ 回答番号4: まったくそう思わない